

令和4年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センターみずほ苑

日時及び場所	参加者	討議内容(地域課題・対応・今後の課題など)
5月23日 (月) 13:30 ~ 14:45	医師 1名 民生委員 2名 介護支援専門員 3名 生活支援コーディネーター 1名 地域の方2名 薬剤師1名 高齢者福祉課 1名 高齢者あんしん相談センター 4名 計 15名	「孤独死を防ぐ地域づくり」 《ケース概要》 事例1:72歳男性、独居。住宅街のアパート1階に在住。「1週間雨戸が開かず、生活状況が心配だ」と、民生委員から包括に相談あり。 事例2:86歳男性、独居。住宅街にある2階建ての一軒家に在住。地元の議員さんから包括に相談。買い物に行けないだろうと、食べ物の差し入れをする等、地域の方が見守りを継続されていた。事例3:81歳男性、独居。住宅街にある2階建ての一軒家に在住。近隣の方が心配で何度か本人宅訪問し、様子を確認している。 《対応》 ・高齢者のプライドを傷付けず声をかけるのは難しいが、まずは心配な方がいると誰かが気が付くことが大切。 ・高齢者自身がSOSを発信できる、しやすい環境を作ることが必要。 《今後の課題》 ・日常生活に直結している民間の事業所と協力して見守り体制に繋げていけると良い。 ・SOSに気付くきっかけ。防災無線を活用し市民に見守りを声かける。年に1回キャンペーンのように周知活動を行うなど検討。 ・見守りネットワークなどを活用して行っていく。
11月7日(月) 13:30~14:45	医師 1名 民生委員 2名 介護支援専門員 1名 生活支援コーディネーター 1名 東入間警察書生活安全課1名 薬剤師1名 高齢者福祉課 1名 高齢者あんしん相談センター 3名 計 12名	「消費者被害についての地域での取り組みを考える」 《ケース概要》 96才男性。独居。要支援1。屋根瓦が壊れていると説明し、工事費用148万円請求される。また、別日に富士見市の職員を名乗る2名が訪問。年金の振り込まれる口座が凍結されている。と本人に説明し通帳を要求。やり取りをしているところに姪が訪問し未然に防ぐ。 《対応》 ・初回で防犯対策をすることが重要。 ・高齢者に分かり易く、短いキーワードで対応方法を教える。伝え繰り返すことが大事。具体策を繰り返し根気よく教えていくという姿勢で臨む事が大切。 ・留守番電話の活用。 ・個人の情報は駄々洩れ。漏れている事が当然と思って、注意する。 ・自分では情報を渡さない。教えない。ことを地道に伝える。 《今後の課題》 ・高齢者に分かり易く伝える手段として、カードやDVDの活用が有効。民間の企業(金融機関ロビー、病院待合室、ウエルシアやヤクルト等)への協力依頼。民生委員さんへ協力依頼 ・機器の活用(赤・緑色のランプが点灯する最新の留守電等)の推奨。高齢者に情報提供をしていく。
1月23日(月) 13:30 ~ 14:45	医師 1名 民生委員1名 介護支援専門員 3名 生活支援コーディネーター 1名 薬剤師1名 サロン代表者3名 高齢者福祉課 1名 高齢者あんしん相談センター 3名 計 14名	「地域のサロン活動の現状と課題」 《概要》 ・関沢いきいきサロン:コロナで活動休止中。再開にあたり感染対策・スタッフの高齢化・3年間の休止でスタッフのモチベーションの低下などが問題。後継者問題。 ・ゆるゆるサロン:コロナによる休止で利用者の認知面、体力面の低下。イベントの講師不足などが問題。 ・関沢横丁:感染対策もあり、半日で行っている。1日型に戻すタイミングが分からない。 《対応》 ・生活支援コーディネーターの役割について説明。サロン活動を続けるにあたって支援できる。スタッフのモチベーションが上がる支援、不安を解消するアドバイスなど可能。 ・講師については、薬剤師・包括なども可能。 ・後継者問題はどこも抱える問題。ボランティア活動などからサロンの活動につながる。 《今後の課題》 ・多様なサロンの課題がある。解決することは難しいかもしれないが、情報を共有し協力しながら続けていけるよう、社協や包括等支援していく。

